

VII-6

POEMS 症候群に対する新規治療戦略：(1)自家末梢血幹細胞移植の有用性

中世古知昭¹、阿部大二郎¹、大和田千桂子¹、堺田恵美子¹、竹田勇輔¹、田中宏明¹、小田佳世¹、小澤真一¹、清水直美¹、増田真一¹、趙 龍桓¹、西村美樹¹、三澤園子²、桑原 聡²
千葉大学医学部附属病院血液内科¹、同神経内科²

【目的】POEMS 症候群は多発神経炎、M 蛋白血症、高 VEGF 血症等を主徴とする稀な疾患である。化学療法等による治療効果は一時的で進行性の経過をたどり、予後は不良であるとともに、末梢神経障害により患者の QOL は著しく障害される。我々は POEMS 症候群に対し自家末梢血幹細胞移植(auto-PBSCT)を施行し、良好な成績を得ているので報告する。【方法】65 才以下の POEMS 症候群患者を対象とした。自己末梢血幹細胞採取は cyclophosphamide (CY) 4g/m²+G-CSF にて採取し、PS3-4 の症例は G-CSF 単独で採取した。前処置は L-PAM 140-200mg/m²で行った。【結果】これまで 10 例に幹細胞採取を試みたが、2 例では十分量の幹細胞を確保できず、8 例に対して auto-PBSCT を施行した。CY+G-CSF 5 例、G-CSF 単独 3 例。年齢は 41-58 才(中央値 49 才)。男性 6 例、女性 2 例。輸注 CD34 陽性細胞数は、2.0-4.6 x 10⁶/kg(中央値 2.3)。造血回復は順調であり、好中球 > 500/μl に要した日数の中央値は 13 日であった。移植後観察期間中央値 15 ヶ月(1-43 ヶ月)で全例生存中であり、6 例において移植後血清 VEGF 値は正常化した。全例緩徐に神経症状の改善を認め、歩行不能患者が自力歩行可能となり、社会復帰する等、QOL の改善を認めている。【結論】 POEMS 症候群に対する Auto-PBSCT は生命予後を改善するとともに、末梢神経炎等による症状の改善をもたらし、患者の QOL も向上させうる。今後症例を重ねるとともに、長期的に注意深く経過を観察していきたい。